

平成 28 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名 松本 大

最終学歴	大阪大学大学院文学研究科博士後期課程文化表現論専攻修了	
取得学位	文学（博士）（大阪大学 2015・3）	
所属学会	中古文学会、和歌文学会、日本文学協会、大阪大学国語国文学会、大阪大学古代中世文学研究会、東京学芸大学国語国文学会	
専門分野	中古文学	
研究課題	『源氏物語』の享受・注釈書に関する研究	
授業科目	学部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・言語・文学（一） ・国文学講読（二） ・演習I（二） ・演習II（二） ・中古物語論 ・比較交流論 I ・国文学特殊講義 ・世界遺産学概論（1回のみ）
	大学院修士課程担当科目（博士前期課程含）	なし
	大学院博士後期課程担当科目	なし
	通信教育部担当科目	・平安文学論
【研究上の特記事項】	<p>研究対象は、『源氏物語』の注釈書・享受資料である。特に四辻善成『河海抄』を中心とする。</p> <p>研究の特色は、各地に残された各注釈書・享受資料の伝本調査を行い、本文系統の見直しを基盤とした上で、注記増補の特徴や性質、さらには注釈書成立の背後にある学問体系との関係性を明らかにする点である。この成果により、博士後期課程在学中の2014年に、第7回中古文学会賞を受賞している。</p> <p>平成28年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（研究活動スタート支援）採択・研究課題名「『河海抄』を中心とした『源氏物語』古注釈書・享受資料に関する基礎的研究」（課題番号：15H06783）。</p>	
【教育上の特記事項】	<p>授業においては、事前の自主学習が十分になされるように指導し、必要に応じて授業時間外に個別の質問等に答えるように配慮している。使用する資料等はあらかじめ配布し、予習・復習が効率よく、かつ充実したものとなるよう助言を行っている。演習科目については、学生同士の意見交換を積極的に促しており、問題・課題の把握とその解決方法の発見を、学生自身が主体的に行うことの出来る授業環境を心掛けている。また、週に一度、学生主体の自主勉強会も開催している。</p>	
【社会的活動】	和歌文学会関西例会委員（11月～）	
【学内活動】 (学内職歴を含む)	図書館委員、就職委員、キャリア教育委員、奈良大学かるたサークル・顧問	

研究業績[著書、学術論文等]				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学術論文) ①『原中最秘抄』の性格一行阿説への再検討を基点として—	単	2016・8	福島金治編『学芸と文芸』(生活と文化の歴史学9), 竹林舎	pp. 228-257, 査読無
②奈良大学図書館蔵『伊勢物語和哥注』翻刻	単	2017・3	『奈良大学紀要』第45号	pp. 51-77, 査読無
(学会発表) ①『花鳥余情』が示す文脈解釈の再検討	単	2016・6・25	第276回大阪大学古代中世文学研究会	於：大阪大学, 査読無
②『伊勢物語山口記』の現存伝本とその性格	単	2016・8・18	国文学研究資料館機関研究「鉄心斎文庫伊勢物語資料の基礎的研究」第2回研究会	於：国文学研究資料館, 査読無
③『花鳥余情』における『河海抄』利用	単	2016・8・31	第2回大阪大学古代中世文学研究会夏期セミナー	於：エクシブ有馬離宮, 査読無
④『花鳥余情』による『河海抄』利用の実相	単	2016・10・23	平成28年度中古文学会秋季大会	於：大阪大学, 査読有
⑤冷泉家流伊勢物語古注の内容をどう捉えるべきか	単	2016・11・6	日本文学協会第71回大会・ラウンドテーブル	ラウンドテーブル「伊勢物語の古典化—冷泉家流伊勢物語古注研究の再検討—」 於：二松學舎大学, 査読有
(その他) ①平成28年度 第5回 研究活動 スタート支援	単	2016・4・1~2017・3・31	日本学術振興会	課題番号：15H06783 研究課題名：『河海抄』を中心とした『源氏物語』古注積書・享受資料に関する基礎的研究
②日本文学協会第71回(2016年度)大会ラウンドテーブル「伊勢物語の古典化—冷泉家流伊勢物語古注研究の再検討—」報告	単	2016・12	笠間書院	笠間書院kasamashoin ONLINE (http://kasamashoin.jp/2016/12/712016_2016116.html)